

# エコアクション21

## 環境経営レポート

対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日



ブルーテクノ株式会社

広島県三原市宗郷二丁目3番35号

TEL: (0848) 67-5611

FAX: (0848) 38-7993

発行日: 2021年6月25日

# 目 次

●環境経営方針	1
●取組の対象組織・活動	2
会社概要	
環境経営責任者氏名及び担当者連絡先	
事業規模	
認証・登録の対象組織・活動	
●経営システム組織図	3
各部門の役割	
●実績と環境経営目標	4
●環境負荷の実績と短・中期環境経営目標	5
●主要な環境経営計画の内容	6~15
●環境関連法規への違反、訴訟の有無	16
●代表者の見直しとその評価	17

# 環境経営方針

私たちは積極的に環境保全活動を推進し、公共用水域の水質保全をはじめ地球温暖化・廃棄物問題・身近な自然の減少など、現在の環境問題を解決し、持続可能な社会を構築していかなければなりません。

当社は社員一人ひとりが環境保全の重要性を踏まえ、省エネルギーの推進や資源の循環利用など、「エコアクション21」の理念を基に、主体的な取り組みを行い地域社会に貢献し、信頼される会社を目指して事業活動を行います。

## 《活動指針》

### 1. 当社は、下記の取組を行います。

- ① 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ② 電力の消費に伴う二酸化炭素排出量を原単位で削減します。
- ③ 一般廃棄物の分別と4R(Reduce・Reuse・Recycle・Repair)の推進を行います。
- ④ 上水道の節水に努めます。
- ⑤ エコドライブの推進によって自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ⑥ 事務用品の調達においてグリーン購入を推進するとともに省資源に努めます。
- ⑦ 良好な放流水を確保することによって、水環境への負荷の低減に努め、沼田川および瀬戸内海の環境保全に努力します。
- ⑧ 毒物劇物等の化学物質を適切に管理し、適正量の使用に努めます。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

### 2. 環境関連法規等や当社が約束したことを順守します。

制定日：2010年7月1日

改定日：2018年4月2日

代表取締役



## 取組の対象組織・活動

### 会社概要

- 会社名                   ブルーテクノ株式会社
- 代表者名               代表取締役   篠澤 浩二
- 所在地                   広島県三原市宗郷二丁目 3 番 35 号
- 設立                     平成 7 年 10 月 16 日
- 資本金                   1,050 万円
- 売上高                   31,721 万円
- 事業年度                4 月～翌年 3 月
- 事業内容                (公益財団法人) 広島県下水道公社からの委託を受けた  
下水道処理施設運転保守管理
- 担当者：                土井田 智雅子
- 連絡先：                TEL：(0848) 67-5811      FAX：(0848) 67-5810  
E-mail：info@blue-techno.co.jp

### 事業規模

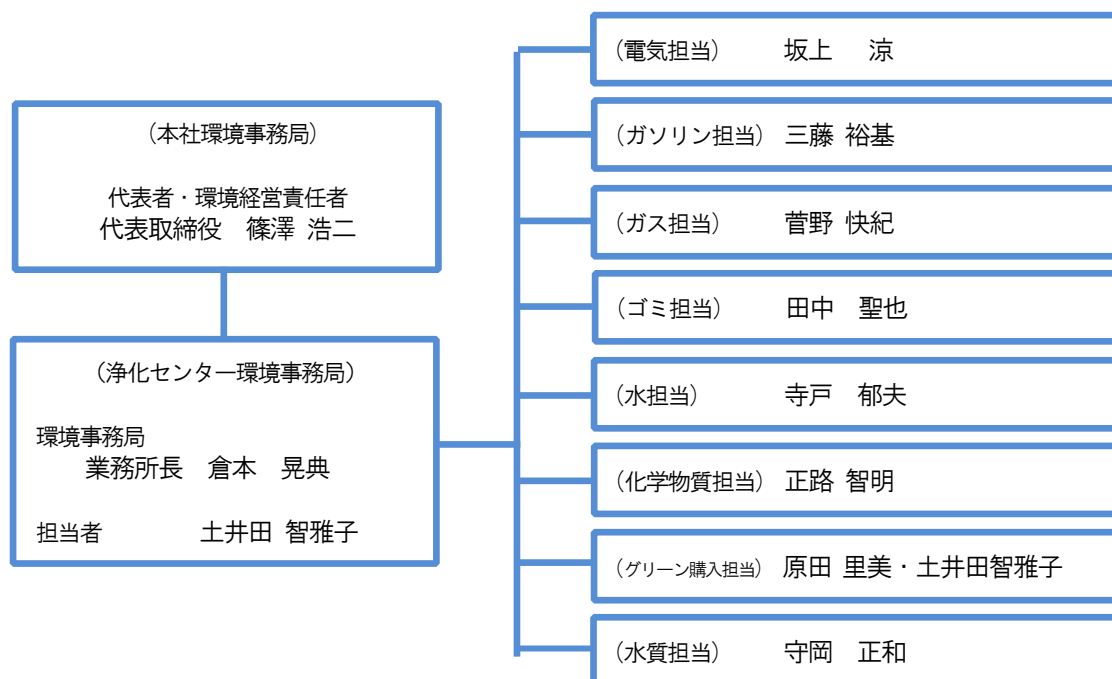
従業員数	24 人
延べ床面積	32.39 m <sup>2</sup>
処理水量	4,784 千m <sup>3</sup> (沼田川浄化センター)

### 認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名            本社
- 活動                    下水道処理施設運転保守管理

# ブルーテクノ株式会社 環境経営システム組織図

更新日：2020年4月1日



## 各部門の役割

代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・法規制等の要求事項登録簿を承認</li> <li>・環境経営実施計画書を承認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>・「環境関連法規等チェックリスト」の作成</li> <li>・環境目標・環境経営実施計画書原案の作成</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・従業員に対する教育訓練の実施</li> </ul>
担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当に関連する環境目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・担当の問題点の発見、是正、予防処置</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

# 環境負荷の環境目標

## ○ 中期環境目標

(2019年度の実績を基準値とし、2020~2022年度の環境目標を策定しております。)

項 目			単位	基準値		目標値						
				2019年度	短期		中・長期					
					2020年度	削減割合	2021年度		2022年度			
						削減割合		削減割合				
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	原単位(電力/流入量)	kWh/m <sup>3</sup>	0.7835	0.7757	対前年度比 1.0%減	0.7679	対前年度比 1.0%減	0.7602	対前年度比 1.0%減	
				kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	0.3596	0.3560		0.3524		0.3489		
		【参考】電力量		kWh/年	3,748,296	3,710,813	—	3,673,705	—	3,636,968	—	
				kg-CO <sub>2</sub> /年	1,720,468	1,703,263		1,686,231		1,669,368		
	本社	電力量		kWh/年	1,390	1,390	現状維持	1,390	現状維持	1,390	現状維持	
				kg-CO <sub>2</sub> /年	941	941		941		941		
	燃料	ガソリン	浄化センター		km/L	14.64	14.64	現状維持	14.64	現状維持	14.64	現状維持
					kg-CO <sub>2</sub> /年	1,428	1,428		1,428		1,428	
			本社		km/L	15.44	15.44	現状維持	15.44	現状維持	15.44	現状維持
					kg-CO <sub>2</sub> /年	2,940	2,940		2,940		2,940	
LPG			m <sup>3</sup> /年	63,994	63,930	0.1%減	63,802	0.3%減	63,674	0.5%減		
			kg-CO <sub>2</sub> /年	397	397		396		395			
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター	kg/年	824.81	824.81	現状維持	824.81	現状維持	824.81	現状維持		
		本社	kg/年	8.59	8.59	現状維持	8.59	現状維持	8.59	現状維持		
	産業廃棄物	浄化センター	kg/年	654.22	654.22	現状維持	654.22	現状維持	654.22	現状維持		
水使用量	上水道使用量	浄化センター	m <sup>3</sup> /年	794.89	794.10	0.1%減	792.51	0.3%減	790.92	0.5%減		
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター	kg/年	対象物質購入量把握								
グリーン購入対象品の購入	浄化センター	品/年	グリーン対応品購入数確認(新種品購入時)									
	本社	品/年										
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター	mg/L	自己管理基準値以下(14.0mg/L以下)								
	BOD			自己管理基準値以下(5.0mg/L以下)								

※ 原単位は、放流量1m<sup>3</sup>あたりの電力使用量(kWh)としています。

※ 本社の電力量二酸化炭素排出係数は、0.677 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) としています。

(平成30年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数)

※ 浄化センターの電力量二酸化炭素排出係数は、0.459 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) としています。

(平成30年度 新出光 二酸化炭素調整後排出係数)

※ 電力、ガソリン、LPGの二酸化炭素排出量は参考値とします。

(ガソリンの二酸化炭素排出量は、総ガソリン購入量を基に算出しています。)

※ 本社の水道施設は、ビル共用により、データがありません。

※ 化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※ 放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理しています。評価は、年間を総合して行います。

# 実績と目標達成状況

## ○ 環境目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果

項目			単位	基準値	目標値		実績		達成判定		
				2019年度	2020年度		2020年度				
						増減割合		増減割合			
二酸化炭素排出量	電力	浄化センター	原単位（電力/流入量）	kWh/m <sup>3</sup>	0.7835	0.7757	対前年度比 1.0%減	0.7452	4.89%減	○	
				kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	0.36	0.3560		0.3420	—		
		【参考】電力量		kWh/年	3,748,296	3,710,813	—	3,882,864	—		
				kg-CO <sub>2</sub> /年	1,720,468	1,703,263		1,782,235	—		
	本社	電力量		kWh/年	1,390	1,390	現状維持	1,430	2.88%増	×	
				kg-CO <sub>2</sub> /年	941	941		968	—		
	燃料	ガソリン	浄化センター		km/L	14.64	14.64	現状維持	15.76	24.03%増	○
					kg-CO <sub>2</sub> /年	1,428.22	1,428.22		1,453.39	—	
			本社		km/L	15.44	15.44	現状維持	14.65	5.09%減	×
					kg-CO <sub>2</sub> /年	2,940.00	2,940.00		3,377.48	—	
LPG		浄化センター		m <sup>3</sup> /年	63,994	63,930	0.1%減	42,916	32.87%減	○	
				kg-CO <sub>2</sub> /年	397	397		266.51	—		
廃棄物排出量	一般廃棄物	浄化センター	kg/年	824.81	824.81	現状維持	682.00	17.31%減	○		
		本社	kg/年	8.59	8.59	現状維持	9.32	8.50%増	×		
	産業廃棄物	浄化センター	kg/年	654.22	654.22	現状維持	959.63	46.68%増	×		
水使用量	上水道使用量	浄化センター	m <sup>3</sup> /年	794.89	794.10	0.1%減	1,013.03	27.44%増	×		
化学物質使用量	対象物質購入量	浄化センター	kg/年	対象物質購入量把握			15.00	—	○		
グリーン購入	浄化センター		品/年	グリーン対応品購入数確認（新種品購入時）			0	—	○		
	本社		品/年				0	—	○		
放流水排水基準の遵守	COD	浄化センター	mg/L	自己管理基準値以下（14.0mg/L以下）			—		○		
	BOD			自己管理基準値以下（5.0mg/L以下）			—		○		

※ 2019年度の総二酸化炭素発生量は、1,796,820.07（kg-CO<sub>2</sub>）です。

※ 原単位は、放流量1m<sup>3</sup>あたりの電力使用量(kWh)としています。

※ 本社の電力量二酸化炭素排出係数は、0.677（kg-CO<sub>2</sub>/kWh）としています。

（平成30年度 中国電力 二酸化炭素調整後排出係数）

※ 浄化センターの電力量二酸化炭素排出係数は、0.459（kg-CO<sub>2</sub>/kWh）としています。

（平成30年度 新出光 二酸化炭素調整後排出係数）

※ 電力、ガソリン、LPGの二酸化炭素排出量は参考値とします。

（ガソリンの二酸化炭素排出量は、総ガソリン購入量を基に算出しています。）

※ 本社の水道施設は、ビル共用により、データがありません。

※ 化学物質使用量は、使用量が微量なため購入量把握及び適正使用を目標としています。評価は、年間を総合して行います。

※ 放流水排水基準の遵守に関しては、法定基準より厳しい自主目標基準値を設けて管理しています。評価は、年間を総合して行います。

※ 達成判定の評価における【△】は、数値目標の△10%以内としています。

# 主要な環境経営計画の内容・実績

## ◆ 本社

### ① 電力使用量の削減

#### ○ 取組内容・実勢

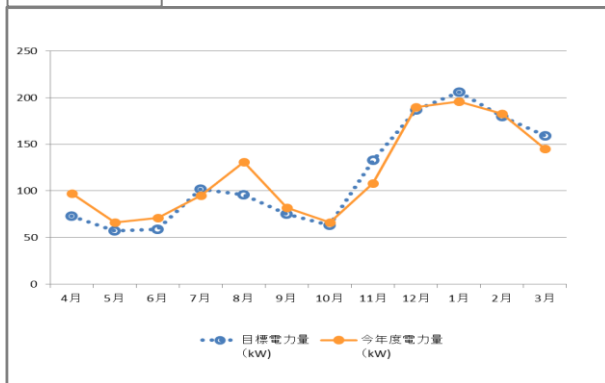
- ・退室時に不要な照明は消灯する
- ・コピー機（複合機）を省エネモードにする
- ・エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する

本社は、出入口しか開口部がないため、事務所内に熱がこもり易い。特に夏季の電力量削減は困難であるが、室内環境が整っていることを前提とした上で室内換気を行い、エアコンの設定温度の見直し及び使用していない電化製品の電源をこまめに切ることによって電力量削減対策を行っています。2015年度からは、室内蛍光灯をLEDに変更し大型冷蔵庫を廃棄したため、大幅な電力削減となっています。

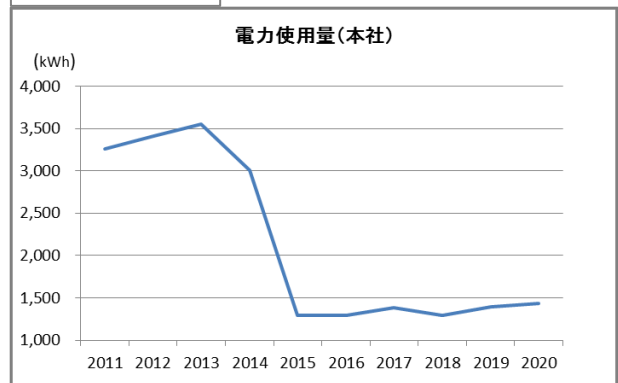
今年度は、前年度と比較して年間を通して電力量が増加しました。新型コロナウイルス対策としてエアコン・電気ストーブ稼働時でも、窓や出入口を開放したことが要因の一つと推察されます。

来年度は、新型コロナウイルス対策を講じた「新しい生活様式」に対応しつつ、業務及び体調に支障をきたさない範囲で節電に取り組んでいきます。

2020年度



年度ごとの推移





## ② 自動車燃料の削減（燃費の向上）

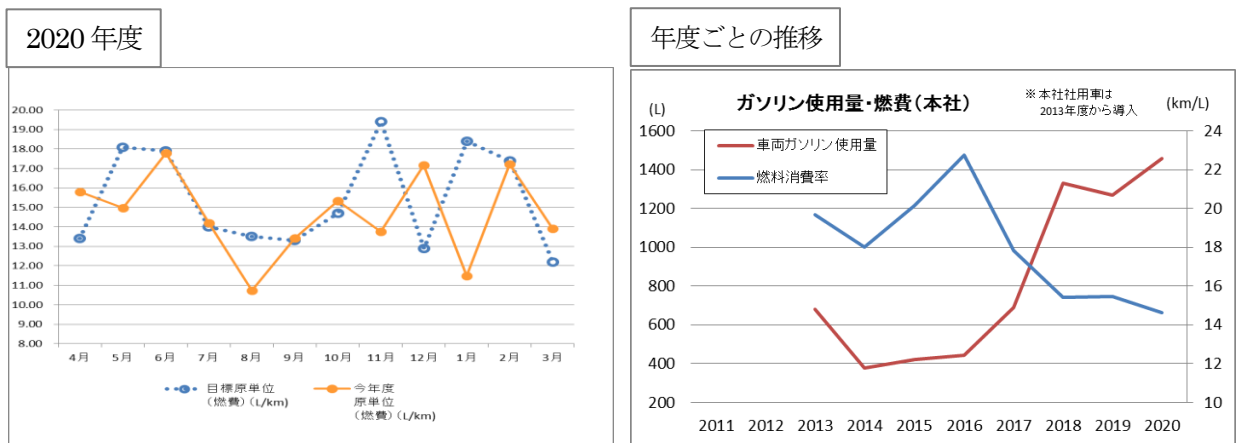
### ○ 取組内容・実績

#### ・エコドライブの推進

本社の車は、社長の営業車として使用しています。年間推移のグラフを見ると年々燃費が悪くなっていますが、使用状況によって燃費が変動しているのではないかと推察されます。

2019年度が15.44km/Lに対し今年度は14.65km/Lと、前年度と比較して燃料消費率は高くなりました。

来年度は、急加速の抑制やエアコン設定温度及びアイドリングの見直し等、今まで以上にエコドライブを実践することで、少しでも燃費が向上するよう努めていきます。



## ③ 一般廃棄物の削減

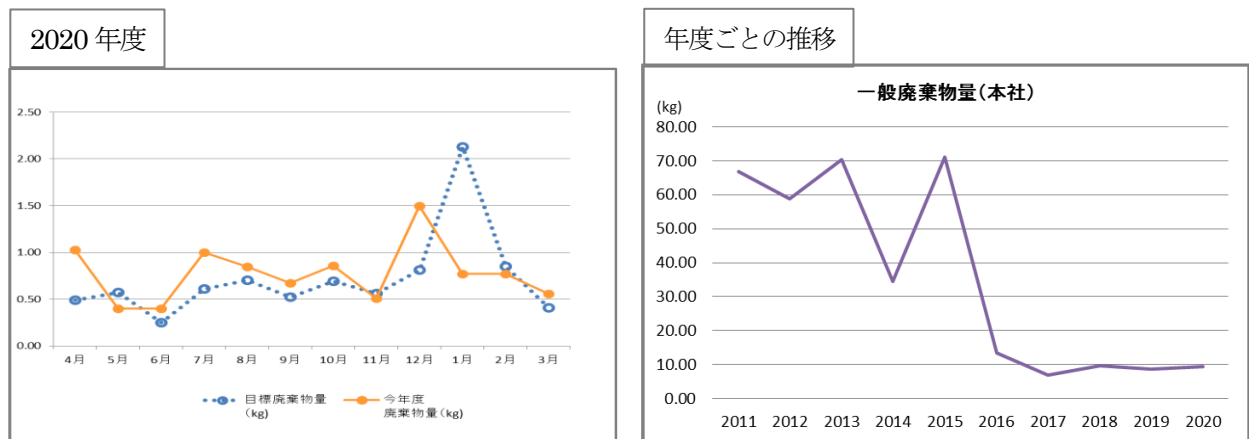
### ○ 取組内容・実績

- ・裏紙の使用と両面印刷の活用
- ・ゴミの分別，リサイクルの実施

2015年度は、大規模な書類整理を実施したため排気量が増加しています。2015年度から、紙の資源化に努めることが廃棄物量削減に繋がっています。

今年度は、年間を通して目標値を超える結果となりました。総廃棄物量が少ないため、新型コロナウイルス対策を講じることにより発生するペーパータオル等の廃棄物量が増加したことが影響したと推察されます。

来年度は、保管年数を過ぎた書類の破棄及び整理整頓などで一時的に廃棄物が増加する場合もあると思いますが、引き続きウイルス対策を講じつつ、両面印刷・裏紙の使用などで廃棄物の減量に努めていきます。



#### ④ 上水道使用量の削減

##### ○ 取組内容・実績

- ・ 節水を心がける

水道はビル共用のため使用量の把握はできないが、来年度も水を出しっぱなしにしない等、各自で節水を心掛けていきます。

#### ⑤ グリーン購入の推進

##### ○ 取組内容・実績

- ・ 事務用品は、グリーン購入対応品を購入する

2020年度からは、新種類の物品購入時を対象としてグリーン対応品購入数の把握を行っています。

来年度も、購入時にはグリーン対応品の有無を確認するとともに、可能な範囲でグリーン対応品へ移行することを心掛けていきます。

### ◆ 浄化センター

#### ① 電力使用量の削減

##### ○ 取組内容

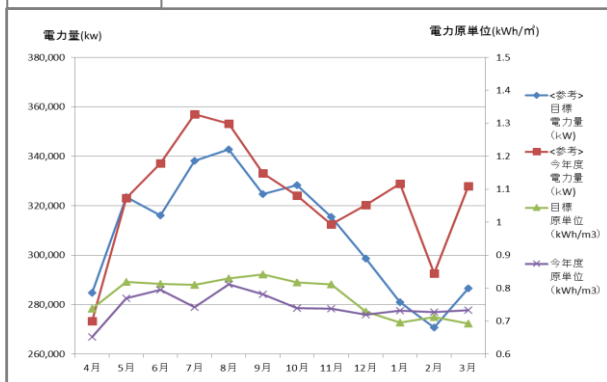
- ・ 退室時に不要な照明は消灯する
- ・ エアコンの設定温度を夏は室温 25℃・冬は室温 20℃に調整する
- ・ 機器運転の効率化（停止可能な機器の停止など）を図る。

浄化センターでは水質の状況に応じて運転管理方法を変更しています。今後も流入水の増加が見込まれるため施設の電力使用量増加は避けることができません。従って、状況により放流水原単位が大幅に増加する可能性もありますが、弊社で規定している放流水排水基準値の水質を保ちながら、節電に努めています。

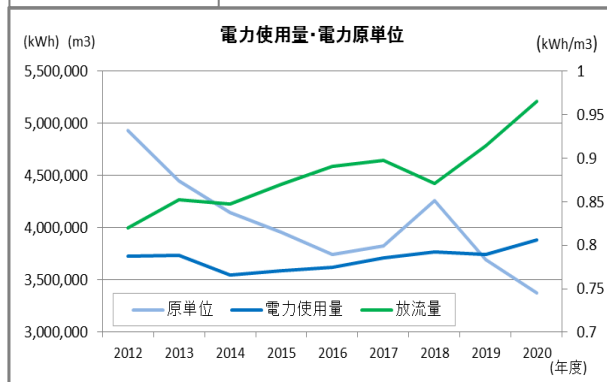
今年度は処理水量の増加だけでなく、施設増設工事に伴い多数の業者が作業を行っていること及びエアコン稼動時でも、新型コロナウイルス対策として窓や出入口を開放したこと等の要因で、使用量が前年度より134,568kWh増加しましたが、環境目標として掲げている「放流水原単位の削減」は処理水量（放流量）から換算されるため、原単位平均値は目標値を達成することができました。

来年度は、全体の電力量からすると成果が見え難いですが、各々ができる設備管理以外の電気削減活動として、退室時の消灯及び空調設備の設定温度の管理などを励行していきます。

2020年度



年度ごとの推移



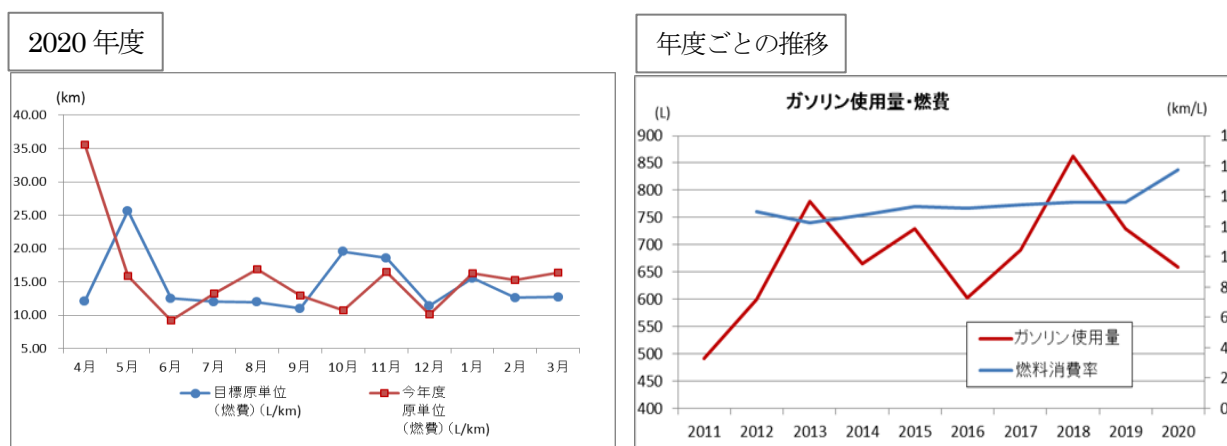
## ② 自動車燃料の削減（燃費の向上）

### ○ 取組内容・実績

- ・エコドライブ運転
- ・場内の移動は、なるべく徒歩や自転車にする

通常行う点検業務以外、特にマンホールポンプ所で不具合が多数発生した場合は山道の走行となるため、燃費が悪くなる可能性はありますが、今後も、通常業務における点検ルートなどの効率化、エアコンの設定温度等の見直し及びエコドライブの徹底により、燃費向上を図ることでガソリン使用量削減に努めています。

2019年度が13.59km/Lに対し今年度は15.76km/Lと、前年度と比較して燃料消費率は低くなりました。年間推移のグラフを見ても年々燃費が良くなっています。来年度もエコドライブを継続していきたいと思えます。



## ③ LPG 使用量の削減

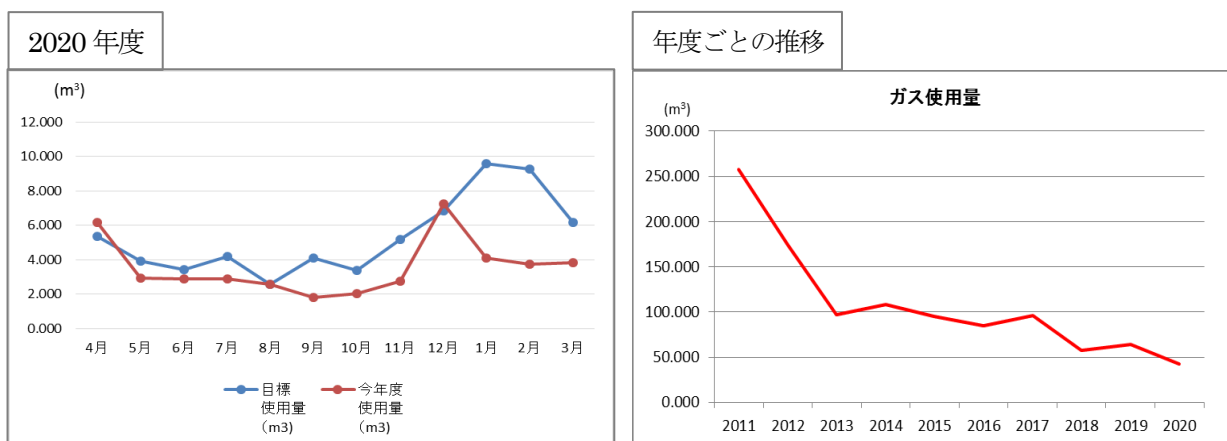
### ○ 取組内容・実績

- ・給湯器温度の適温化を図る。
- ・お湯の使用量を削減する。

年間を通じて、お湯使用時の給湯設定温度調整、未使用時は給湯の電源を切ることを心掛けています。

今年度は、年間を通じて概ね目標値を達成できました。冬が暖冬傾向であったこともあり、特に冬期は大幅に削減することができました。

来年度も、ガスコンロ及びシャワー使用時・冬期の手洗い時の設定温度等の管理に留意していきます。



#### ④ 廃棄物の削減

##### ○ 一般廃棄物・産業廃棄物 取組内容・実績

(一般廃棄物)

- ・ミスプリントの防止
- ・ゴミの分別, リサイクルの実施

(産業廃棄物)

- ・整備及び再使用の実施
- ・リサイクルの実施

(一般廃棄物)

社員一同、書類などの資源化・廃棄時の分別等に取り組みました。今年度は、施設内の整理整頓に伴う廃棄物が発生した場合を除き、概ね目標値を達成することができました。

来年度も、書類などの資源化・ペーパーレス化の推進及び廃棄物の分別に取り組んでいきます。

(産業廃棄物)

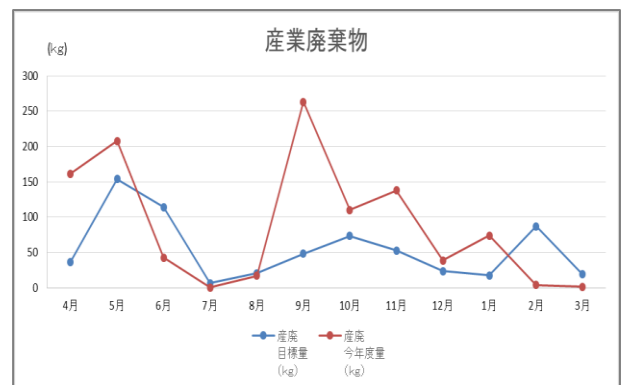
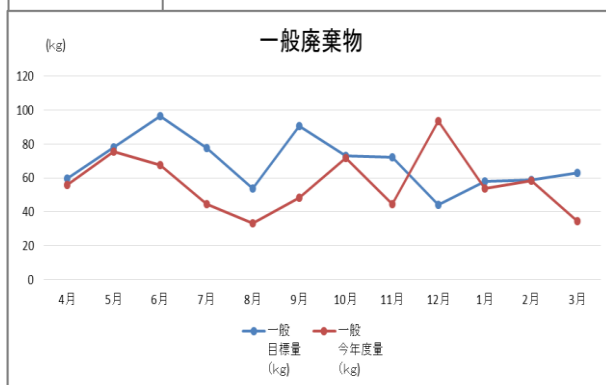
修理及び交換業務に伴う機器・部品の廃棄物重量は、作業内容によって大きく変動します。

施設の老朽化及び経年劣化に伴う修理業務が年々増加していくと推察されるため、廃棄量が増加していく可能性があることも、視野に入れておかなければなりません。

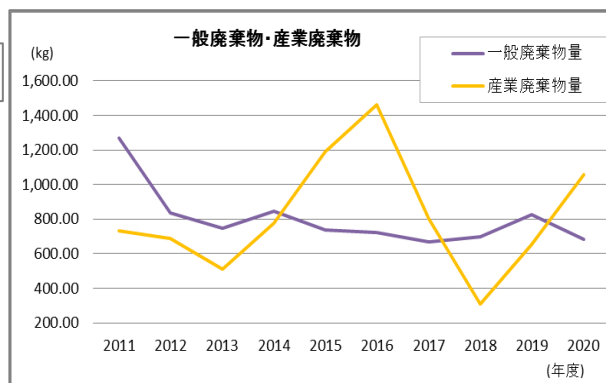
今年度は、産業廃棄物保管場所の整理を実施し、廃棄物リサイクル業へ鉄くずを搬出しましたが、今年度以前の廃棄物及び弊社管理外の廃棄物も含まれていたため、集計に反映できていないことが反省点です。

基準年の動向にあわせて廃棄量の調整を行っていくことは不可能ですが、来年度も5Sの取組により、不要な廃棄物を出さないよう心掛けていくとともに、廃棄物リサイクル業へ搬入した弊社分の廃棄物量が把握できるよう対策を講じていきたい。

2020年度



年度ごとの推移



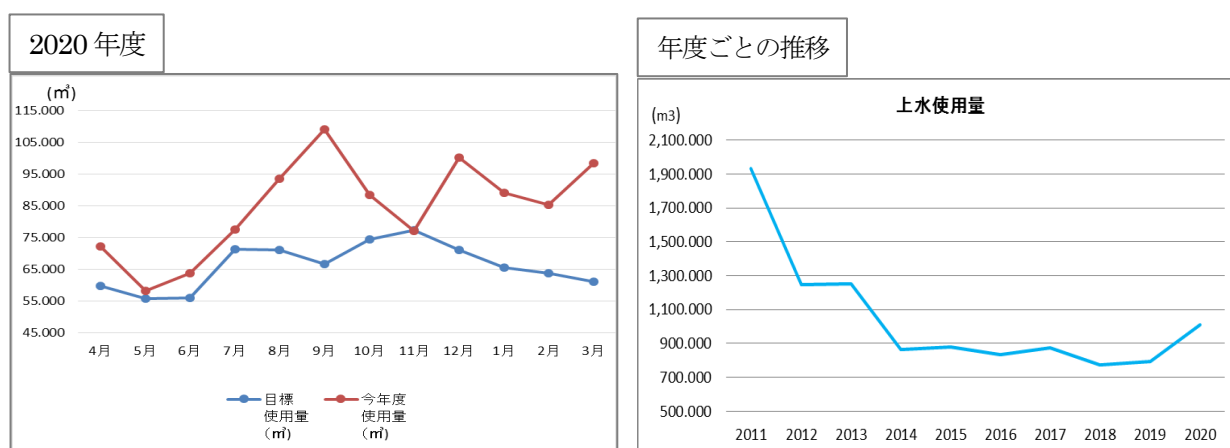
## ⑤ 上水道使用量の削減

- ・ 節水の徹底。
- ・ 蛇口を確実に閉める。

(公財) 広島県下水道公社様と共用のため、(公財) 広島県下水道公社様のご協力がなければ上水の使用量削減は望めないのですが、花・農作物への水やりやトイレの洗浄水等、下水再生水の使用可能箇所は下水再生水を使用することにより、上水の使用量削減に努めています。

浄化センターでは、今年度は使用量が年間を通して増加し、目標値を達成できなかった。増加した理由として、設備工事及び施設増設工事に伴い多数の業者が上水を使用する状況に加え、新型コロナウイルス対策として、例年以上に手洗いを心掛けたことが理由と考察されます。

来年度も上水を使用する状況は変わらないので使用量削減は難しいと推察されますが、感染症の対策を行いながら、衛生的な作業環境を確立する中で、各々ができる節水対策を実践していきます。



## ⑥ 化学物質使用量の把握

### ○ 取組内容・実績

- ・ 特定化学物質が含まれている塗料の購入量の把握を行う

使用量が微量なため管理は行わず、購入している塗料についてのPRTR法に記載されている化学物質量の把握を目標として掲げ、塗料購入量の把握及び塗料使用の効率化を目標達成手段として挙げています。

2020年度は年間を通して適正に管理することができました。来年度も適正な管理に努めていきます。

## ⑦ グリーン購入の推進

### ○ 取組内容・実績

- ・ 事務用品は、グリーン購入対応品を購入する

2017年度版では要求事項から削除されているので、2020年度からは、新種類の物品購入時を対象としてグリーン対応品購入数の把握を行っています。浄化センターでは、今年度の購入はありませんでした。

来年度も、購入時にはグリーン対応品の有無を確認するとともに、可能な範囲でグリーン対応品へ移行することを心掛けていきます。

## ⑧ 放流水排水基準の遵守

### ○ 取組内容・実績

・良好な放流水の確保のために、流入水及び放流水の水質状況に応じた運転管理を行う

法定基準よりも厳しい「自主目標基準値」を設けて管理を行っています。

年間を通して、流入水・放流水の水質状況に応じた運転管理を実施することができました。

今後も流入水量は増大していく予定なので、施設の処理能力が増えるまで、最終沈澱池の水面積負荷は高い状態が続くと推測されますが、来年度も処理水量と MLSS を調整しながら適切な運転管理に取り組んでいきます。



## 🌱 地域貢献・環境活動

- 浄化センター周辺の清掃・ゴミ拾いを行っています。また月に一度、(公財)広島県下水道公社三原支所職員様と合同で、清掃作業を行っています。

この場所は、ウォーキングなどを行う市民の方が多く利用される場所です。市民の方に、心地よい時間を過ごして頂けるよう、美観に努めています。



- 浄化センターの正門付近にプランターを設置しています。一般見学の方の憩いの場となっています。

水やりの水は、下水再生水を用いています。

- 社用車に防犯パトロールのステッカーを貼っています。社用車で走行時には、地域の防犯活動も併せて行っています。





○ 場内に造成したビオトープには、メダカを放流しています。水は下水再生水を用いています。

ビオトープには、メダカ以外にもヤゴや、おたまじゃくしも共生しています。

○ ビオトープで育ったメダカは、例年9月に行われる下水道ふれあいデーで、来場された住民の方にメダカをお配りしています。(2020年度はメダカ配布中止。)

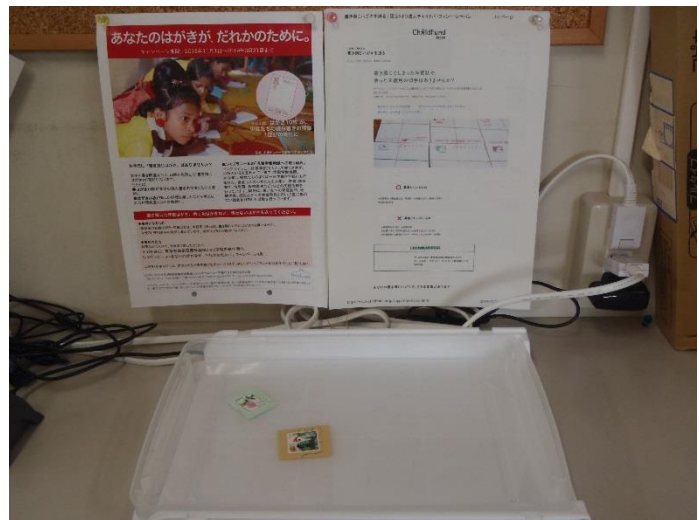
毎年多くの市民の方が、メダカを楽しみに来場して下さいます。

メダカの容器は、使用済のペットボトルを再利用しています。

○ 書き損じはがき、未使用・使用済みの切手を集めて、「特定非営利活動法人シャプラニール」に寄付しています。

例えば、はがき10枚が文字の読み書き授業1回分になります。

「児童労働削減への取り組み」活動の一助になればと思っています。



○ 社内で、ペットボトルキャップを集めています。

430gで10円分のワクチンができます。一人分は20円必要なので、成果としては微々たるものですが、ポリオワクチン作成の一助になればと思っています。





- 場内の草刈で発生した草及び清掃時に発生した落ち枝葉などを利用して堆肥を作成しています。作成した堆肥は、プランターの花及び（公財）広島県下水道公社三原市所様がさつま芋などの農作物を栽培されている畑の堆肥として利用しています。



- 各種啓発ポスターの一部紹介

<節電>



<節水>



<ごみ分別>



## 環境関連法規への違反、訴訟の有無

当社に適応される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反は、ありませんでした。  
また、過去4年間にわたって関係機関等からの指摘、苦情及び訴訟もありませんでした。

法規等の名称	該当する要求事項	遵守評価
下水道法	水質測定結果の記録・保管	○
水質汚濁防止法 (瀬戸内海環境保全特別措置法)	排出基準の遵守	○
	総量規制基準の遵守・測定記録	○
	水質測定結果の記録・保管	○
騒音規制法	法令基準の遵守	○
振動規制法	法令基準の遵守	○
電気事業法	電気工作物の保安規定の順守	○
	電気工作物の工事、維持及び保安の監督	○
消防法	A重油地下タンク貯蔵所及び保管庫の適正管理	○
水循環基本法	健全な水循環への配慮	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	第一種特定製品の点検・適正管理	○
地球温暖化対策推進法	施設内設備の点検・適正管理	○

## 代表者による見直しと評価

- 2020年度の活動を総括すると、社員一人ひとりが「エコアクション21」の理念を理解した上で、意欲的に活動することができましたが、取組の結果として、以下の項目が目標未達成となりました。

本社：電力量削減、自動車燃料の削減（燃費の向上）、一般廃棄物の削減

浄化センター：産業廃棄物削減、水使用量の削減

- 2020年度の目標設定について

浄化センター及び本社の目標設定値は、ガイドラインが2017年度版に移行したことを踏まえ、2019年度の実績値を基準値として変更した値を基に目標値を設定し、環境経営活動を行いました。

2020年度の目標達成項目に関しては、2021年度の基準年は2020年度とし、目標未達成の項目に関しては、基準年を2019年度のまま据え置くと2019年度に決定していましたが、2021年度の状態を踏まえると、基準年を据え置いた場合、環境経営活動が困難である理由が明確な場合においては、2021年度の活動における基準値は状況に応じた値に変更することとします。

具体的には、2020年度に設備工事及び施設増設工事に伴う上水使用量の増加のため、2019年度実績値を目標値としていた『水使用量』の年間目標値は達成できなかったが、2021年度も施設増設工事は継続して行われるため、基準年を2019年度とすると2021年度も2020年度と同様の結果になってしまうことは明らかです。

故に、『水使用量』は目標未達成ですが、2021年度の基準年は、2020年度とします。

他の達成できなかった項目については、2021年度の基準年は、2019年度を据え置いて活動しますが、状況に応じて検討をしていきたいと思えます。

- 2020年度の変更内容について

『ガソリン使用量』を、『自動車燃料の削減（燃費の向上）』に変更して活動を行いました。

1年活動を行った結果、業務内容によって走行距離（ガソリン使用量）は変動した場合でも、燃費は走行距離の影響を受けにくいと感じました。

2021年度からも、『燃費の向上』を念頭に置いた環境経営活動を行っていきます。

- 来年度も、全社員が協力して、『小さなエコ活動の積み重ね』を大切にしながら業務を行っていき、持続可能な社会を構築できるように努力していきたいと思えます。